

令和6年度「人権教育研究指定校事業」指定校事業報告書

委託先（ 徳島県 ）

1. 調査研究のテーマ、概要

調査研究のテーマ	豊かな人権感覚を育成し、多様性を認め合う人権教育の創造
----------	-----------------------------

○調査研究のテーマを設定した目的

本校は、海部郡のほぼ中央に位置し、海と山に囲まれた全校児童87名の小規模校である。2013年に南海トラフ巨大地震による津波を回避するため、高台（市宇ヶ丘）にある牟岐中学校に併設する形で牟岐保育園・牟岐小学校が建設された。保・小・中一貫教育である市宇ヶ丘学園として、園児・児童・生徒が交流を深めるとともに、学校・保護者・地域・教育委員会が連携し、子どもの学びと育ちを15年間にわたり継続的に指導支援している。

本校の児童は、素直で明るい児童が多く、興味をもって学習に取り組んだり、異学年の児童同士が積極的に関わろうとしたりする姿も見られる。外国籍の児童も在籍しており、宗教や生活文化のちがいを身近に感じている。一方、児童数の少なさから生じる固定的な人間関係に左右されがちである。そのため、相手によって自分の考えを表現できずにトラブルに発展することがあり、ちがいを認め合うことや他者の痛みや思いを共感的に受け止めること、そして身の回りにある不合理な偏見、差別を見抜く力が十分に育っていない児童もいる。新型コロナウイルス感染症対策による行動制限や少子化による身近な人々、地域の人々を通してのコミュニケーション、仲間づくり等の体験による学びの不足が要因の一つとしてあげられる。

令和5年度に実施した生活アンケートでは、「自分のことが好き」と答えた児童の割合は、約50%であった。また、「自分のことを大切にしていますか」の問いに対して「思わない」と答えた児童が10%、「自分と同じように相手のことを大切にしていますか」には5%の児童が「思わない」と答えている。このことから、本校児童の自尊感情を高めることが課題であると言える。

そこで、自分がしっかり認められ、自尊感情を高めることができれば、友達や周りのことに関心をもち、人権感覚として身に付いていくのではないかと、また、多様性を認め合い、つながり合う仲間づくりに取り組むことで、自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができるようになるのではないかと考えた。

令和5年度は、徳島県の「多様性を認め合う人権教育推進協力校事業」の指定を受け、これらの仮説の検証を進めた。また、児童の人権感覚の育成のため、「協力的な学習」「参加的な学習」「体験的な学習」を取り入れた人権学習に取り組んできた。さらに、「同和問題」をはじめ、「子ども」「外国人」「災害時の人権問題」等の個人権課題を中心にして取組の充実も進めた結果、一定の成果を上げることができたと考えている。令和6年度はその研究をさらに推進することで、多様性への理解を深めつつ、互いの共通性やちがいを受けとめ認め合

える関係性をめざしていきたい。

牟岐町は少子高齢化が進み、高齢化率が 53%を超えている。持続可能な牟岐の町づくりに貢献する人材の育成は喫緊の課題であり、児童一人一人はこの町を活性化させる貴重な人財である。持続可能な牟岐の町づくりには、高齢者をはじめ多様な人々とつながり、自分も他の人も大切にできる児童を育成しなければならない。そのためにも、多様性を認め合い、身近に潜む人権問題を自分ごととしてとらえ、解決のため実践できる態度を育てたいと考え、本研究のテーマを設定した。

○調査研究の概要

- ①多様性を認め合う市宇ヶ丘学園保・小・中一貫教育構想を活用した教育活動の研究について
- ②豊かな人権感覚を養い、実践力を育成する人権教育の研究について

2. 基本情報

研究指定校の概要

○学校名

牟岐町立牟岐小学校

○これまでの研究指定等の状況

なし

○学級数

8学級（うち特別支援学級2学級）

○児童生徒数

全児童数 87人（令和6年5月1日現在）

○URL

https://school.e-tokushima.or.jp/es_mugi

○指定理由

持続可能な町づくりをめざす牟岐町は少子高齢化や南海トラフ巨大地震等による自然災害への対応等、町民をあげて取り組む課題が多い。中でも、同和問題の解決は喫緊の人権課題であり、徳島県においても「同和問題を人権問題の重要な柱と据え、すべての学校で同和問題の解決に向けた積極的な取組を推進する」とあり、牟岐町では、「牟岐町部落差別撤廃・人権擁護に関する条例」が令和元年12月に施行され、同和問題の解決に向けて児童及び教職員、保護者、地域住民が一体となって取り組んでいる。

また、保・小・中一貫教育である市宇ヶ丘学園として、園児・児童・生徒が交流を深めるとともに、学校・保護者・地域・教育委員会が連携し、子どもの学びと育ちを15年間にわたり継続的に指導支援している。そして、「夢と志を持ったたくましい子どもの育成」をねらいとし、タテの一貫（保・小・中）、ヨコの一貫（学校・家庭・地域）、ナナメの一貫（学校・地域・町づくり）の教育活動を展開している。この市宇ヶ丘学園の構想を生かしつつ、人権問題の解決に向けての研究が進められている。

牟岐小学校は、令和5年度県教育委員会「多様性を認め合う人権教育推進協力校事業」の指定を受け、「豊かな人権感覚を育成し、多様性を認め合う人権教育の創造」をテーマに、「協力的な学習」「参加的な学習」「体験的な学習」を取り入れた人権学習に取り組むとともに、児童の振り返りやアンケート結果を生かした授業改善、タテ、ヨコ、ナナメの一貫した教育活動を生かした教材づくりなど、研究・実践が積み重ねられている。

令和6年度は令和5年度の研究を更に発展させ、人権教育の推進を図るとともに、研究の成果を研究発表会等で広く普及していくことで、県内の人権教育の一層の充実及び発展につながることを期待されるため、牟岐小学校を指定することが最適であると考えます。

3. 取り組んだ人権課題について

取り組んだ人権課題（該当するものに○印。複数選択可。うち、最も主要な人権課題1つに◎をつけること。）

①子供	○
②女性	○
③高齢者	○
④障害者	○
⑤回和問題	◎
⑥アイヌの人々	○
⑦外国人	○
⑧-1 HIV感染者等	○
⑧-2 ハンセン病患者等	○
⑨刑を終えて出所した人	○
⑩犯罪被害者等	○
⑪インターネットによる人権侵害	○
⑫北朝鮮当局による拉致問題等	○
⑬性的指向、性自認	○
⑭その他（災害時における人権問題）	○

4. 調査研究の内容等

○調査研究の内容

牟岐町は市宇ヶ丘学園保・小・中一貫教育構想により、(1) タテの一貫 (保・小・中)、(2) ヨコの一貫 (学校・家庭・地域)、(3) ナナメの一貫 (学校・地域・町づくり) の教育活動を展開している。ふるさと牟岐町のヒト・モノ・コトから、「体験」「省察」「一般化」「適用」の学習サイクルによる学びを充実させることにより、多様性を認め合う仲間づくりと豊かな人権感覚を育成できると考える。

そのため、海洋体験等の自然体験や高齢者、外国人等とのふれあい体験、及び、隣保館をはじめとする公共施設訪問と地域の人々の願い等から学ぶ。多様性を認め合う人権感覚の育成には、体験学習と人権学習の積み重ねと相互作用が重要であるとともに、実践力や行動力へとつながる人権学習の研究も深めていきたい。また、人権教育の指導方法等の在り方について [第三次とりまとめ] からも、自尊感情の育成と調査研究のテーマとは関連性が深いと考えられることから「多様性」「人権感覚の育成」「実践力」「自尊感情」をキーワードとして研究を進めたい。

そこで次の3点を柱として研究を進めていく。

- ①自尊感情を高める教育活動
- ②豊かな人権感覚を養い、実践力を育成する人権学習
- ③多様性を認め合う人間関係を育成する人権教育

○実施方法

①自尊感情を高める教育活動

○年間2回程度の自尊感情に関するアンケートにより児童の実態を把握するとともに、アンケートの課題を意識した児童の振り返り等、PDCAサイクルによる教育活動により自尊感情の育成を図った。

○特別活動において、こむぎっこ班活動やこむぎっこ遊び等の異学年集団の仲間づくり活動を取り入れ、コミュニケーション力やリーダーシップ力を育み、自尊感情を高めた。

○朝の会や帰りの会でのめあてづくりや振り返り、自分の頑張りを認める時間「セルフハグ」や自分自身や友達のよいところ等に気付く時間を設定し、自尊感情を高めた。

○自分だけでなく他の人に役立つ体験活動「一人一役なんかやり隊」を異学年集団で実施することで、成功体験を重ね、自己有用感を高めた。

②豊かな人権感覚を養い、実践力を育成する人権学習

○市宇ヶ丘学園構想タテの一貫、ヨコの一貫を活用した人権学習により、人権感覚と実践力の育成を図った。

- ・6年生児童が牟岐中学校人権発表会に参加して意見交換を行った。

・アイヌの文化や歴史、人権問題について、6年生児童と牟岐中学校1年生が合同で人権学習を行った。

○市宇ヶ丘学園構想ヨコの一貫や児童の実態を関連させ、各学年で重点的に学習する個別人権課題を決めて取り組み、授業改善と児童の実践力や行動力の育成を図った。

・1年「子供」2年「高齢者」3年「障害者」4年「外国人」5年「災害時における人権問題」6年「同和問題」

○年間各学年2回の研究授業と授業研究会により、「協力的な学習」「参加的な学習」「体験的な学習」を取り入れた授業改善を進め、児童と教職員の人権感覚と身近な人権問題を解決しようとする実践力の育成を図った。

○専門的な知識をもつ大学講師や徳島県人権教育指導員を活用した人権学習、校内研修を実施し、「知識的側面」「価値・態度的側面」「技能的側面」の向上を図った。

・学級活動「自分も相手も大切にするかかわりに必要なこと」1年～6年

・社会科「ハンセン病を解決する仲間になって！」6年

・校内研修「傷つきのある子どもへの回復・成長のためのかかわり」

・校内研修「災害後における子どもの対応」

③多様性を認め合う人間関係を育成する人権教育

○市宇ヶ丘学園構想タテの一貫、ナナメの一貫を活用した体験学習、交流学习をすることにより、他者理解と仲間づくりを進めた。

・1年：園児との交流（牟岐保育園）、5・6年：防災まつり（町役場、婦人会）

○授業参観やふれあいフェアを実施し、人権教育での学びを児童が保護者や地域の人々に発信するとともに、啓発活動を行った。

○「アイヌの人々」、「外国の人々」、「高齢者」、「障害者」等とのふれあい体験をし、多様性を認め合うことの大切さを学んだ。

・アイヌの文化と舞踊（4年～6年）、他外国の文化（4年）、高齢者との交流（2年）、手話体験（3年）点字学習（5年）

○検証・評価・改善・普及

①自尊感情を高める教育活動

・「セルフハグ」を取り入れ、ありのままの自分を受け入れることで、ポジティブ思考へと考え方が変わってきている。令和5年度の生活アンケートで「自分にはよいところがあると思う」と答えた児童の割合が69%であったのが、令和6年度の調査では81%となった。周りの人から大切にされ、認められているという安心感から自分のよさに気付く児童が増えてきたことが分かる。

・「一人一役なんかやり隊」を通して、役に立つ体験や感謝される体験をし、自尊感情を高めることができた。前述のアンケートの結果によると、「学校で自分のよさや努力を認めてくれる人がいる」と答えた児童が74%から90%となった。互いの行動を好意的にとらえ、相手を大切にし、自分も大切にされていることを実感できるようになった成果だと考えられ

る。

- ・振り返りを次の活動につなげることに課題が残った。体験により学んだことや改善点を次の目標に見出せるようにPDCAサイクルによる教育活動をさらに推進していく。
- ・全体的に見ると児童の自尊感情は高まってきているが、まだ自尊感情の低い児童が数名見られる。児童一人一人の実態を今一度とらえなおし、タテの一貫、ヨコの一貫を活用した教育活動を更に推進し、自尊感情の育成に取り組んでいく。

②豊かな人権感覚を養い、実践力を育成する人権教育

- ・各学年、行事や教科学習の中で交流学習や体験学習をすることで人と人とのつながりを意識した活動を行った。校内だけでなく地域へと交流する場を広げることでタテのつながりやヨコのつながりができ、人権感覚や人権問題を解決していこうとする実践力の育成を見据えた取組を進めることができた。
- ・中学校での人権意見発表会へ参加し、意見交流を行うことで児童の知識の更新につながった。
- ・個人人権課題についての学習では、徳島県人権教育指導員や地域の講師と連携し、学習を進めることで児童、教職員の人権感覚の育成につながった。生活アンケートでは、「他の人と意見が違っていても自分が正しい根拠をもって考え、正しいと思うことは主張できる」と答えた児童が増えている。このことから、児童と教職員の人権感覚が育成されてきていることが分かる。
- ・「協力的な学習」「参加的な学習」「体験的な学習」を取り入れた人権学習に向けて、教職員研修を重ねることで、指導力が向上し授業改善へとつながった。
- ・主体的・対話的で深い学びの実現のためには、体験活動や教科学習の中で相手の話を聞く力や伝える力をさらに育成する必要がある。

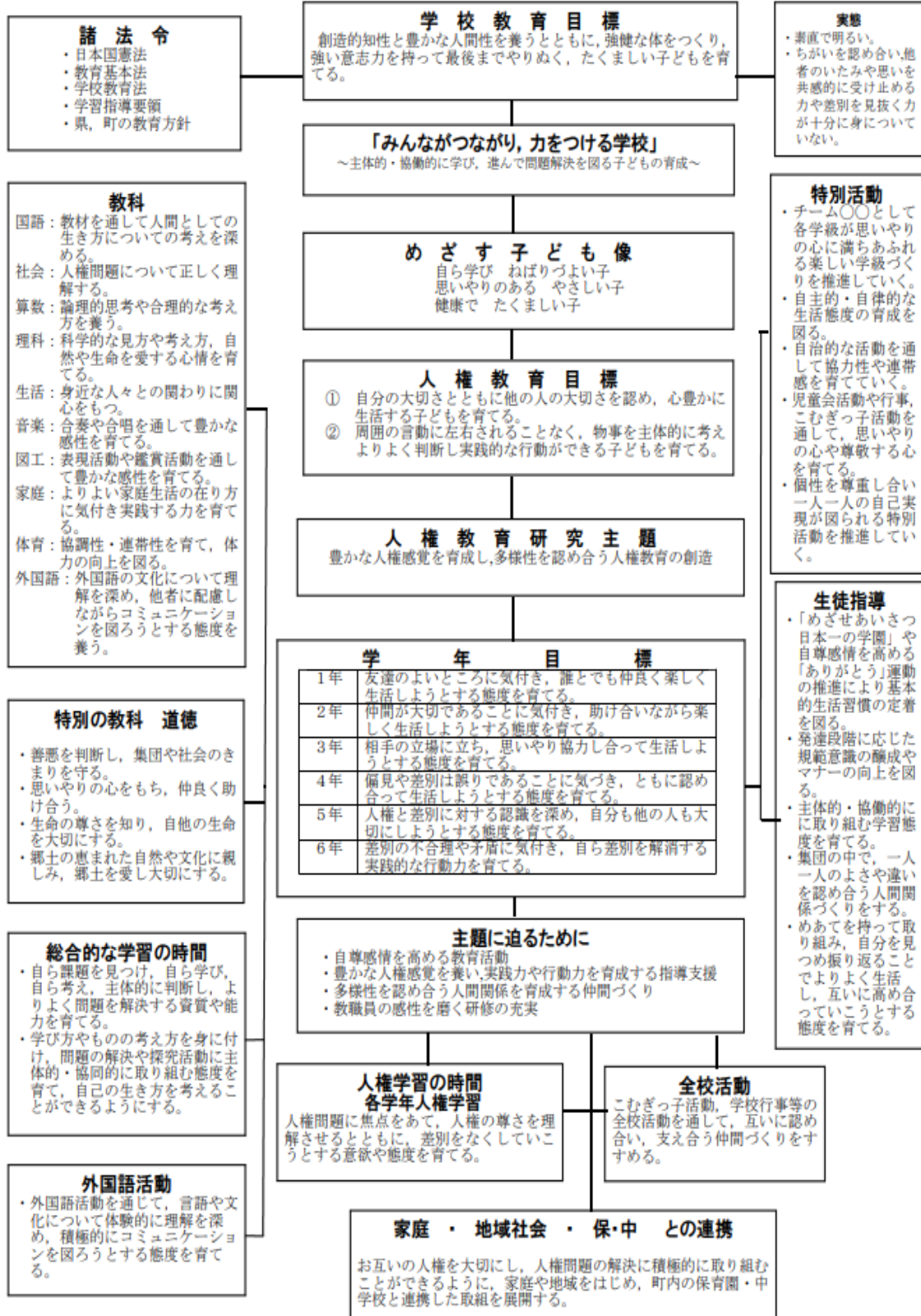
③多様性を認め合う人間関係を育成する人権教育

- ・人権集会や集会活動後の振り返りでは、異学年で話し合いを進めることで多様な意見を取り入れたことが、学級での話し合い活動にもよい影響を与えた。
- ・牟岐保育園、牟岐中学校との交流学習（タテの一貫教育）を通して異年齢集団での仲間づくりの体験をすることで、身近な人々との人間関係の構築に役立った。
- ・様々な立場のゲストティーチャーから机上では得られない話を直接聞くことで、人権侵害が身近な問題として感じられるようになった。
- ・保・小・中による人権学習研究授業、授業研究会や講演会を実施することで、連続性のある人権教育について再認識することができた。
- ・少人数による「固定化された人間関係」の改善には、課題が残る。誰に対しても自分の考えや本音を言えない様子が見られる。本音を出し合い互いに考え合って解決する力を付けたい。
- ・多様性を認め合う人権教育の実践を授業参観を通じて、保護者にも普及を図った。

令和6年度

人権教育全体計画

牟岐小学校



3. 本校の人権教育

(1) 本校人権教育のねらい

本校児童は、学校生活の中で学年の範囲を越えて一緒になって遊んだり、だれとでも仲良く接する姿がよく見られる。しかし、児童の中には自己中心的な考えで友だちをからかったり、相手の気持ちや立場を考えない不用意な言動がもとでトラブルを起こしたりすることがある。人権にかかわるあらゆる差別や偏見をなくし、人権問題を解決していくためには、こうした日常生活における人と人とのかわり方を見つめ直し、互いのよさを認め合い、よりよい人間関係を築いていこうとする意欲や行動力を身につけることが大切である。

本校における人権教育は、自分を大切にするとともに、他の人の大切さにも気づかせ、友だちを認め合い、支え合い、励まし合う力を育てること、また、自分たちの生活の中にある身近な人権問題について考え、よりよく判断し、解決しようと行動する力も育てることがねらいである。

これらの力を育てるためには、教育活動全体を通じて人権教育を展開し、一人一人の人権が大切にされる学級、学校を築いていかなければならない。人権が尊重される環境(場)があつてこそ、互いのよさや可能性を認め合ったり発揮できたりするのである。こうした取組を通して、発達段階に応じた人権についての理解や人権感覚を養い、人権尊重の精神がすみずみまで浸透した社会を実現していこうとする人間を育てていきたい。

(2) 本年度研究事項

豊かな人権感覚を育成し、多様性を認め合う人権教育の創造

- 自尊感情を高める教育活動
- 豊かな人権感覚を養い、実践力や行動力を育成する指導支援
- 多様性を認め合う人権関係を育成する仲間づくり
- 教職員の感性を磨く研修の充実

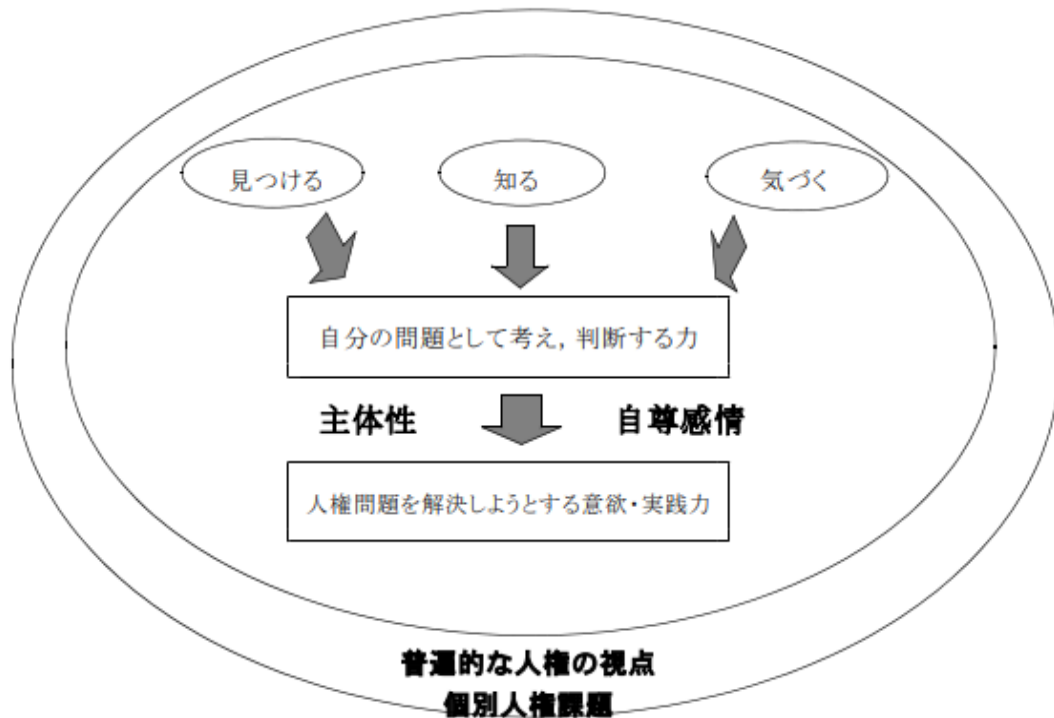
4. 本校の人権教育の目標

- ①自分の大切さとともに他の人の大切さを認め、心豊かに生活する子どもを育てる。
- ②周囲の言動に左右されることなく、主体的に考えよりよく判断し実践的な行動ができる子どもを育てる。

5. 学年別人権教育目標

- 第1学年 ○友だちのよいところに気づき、誰とでも仲良く楽しく生活する。
- 第2学年 ○仲間が大切であることに気づき、助け合いながら楽しく生活しようとする態度を育てる。
- 第3学年 ○相手の立場に立ち、思いやり協力し合って生活しようとする態度を育てる。
- 第4学年 ○偏見や差別は誤りであることに気づき、自他ともに認め合う。
- 第5学年 ○人権と差別に対する認識を深め、人権感覚を育成する。
- 第6学年 ○差別の不合理や矛盾に気づき、自ら差別を解消する実践的な行動力を育てる。

6. 人権学習の評価について



☆評価の観点・規準

(ア. 知識的側面 イ. 価値的・態度的側面 ウ. 技能的側面)

○低学年

- ①友だちと力を合わせて, 学習しているか。(価値的・態度的側面)
- ②身近な友だちとの関わりから, 問題を見つけることができたか。(知識的側面)
- ③自分の意見をはっきりと発表することができたか。(技能的側面)
- ④学習したことを, 生活の中に活かそうとしているか。(価値的・態度的側面)

○中学年

- ①友だちのよさを見つけ, 学習に取り組んでいるか。(価値的・態度的側面)
- ②友だちやまわりの人々の考えから, 問題に気づくことができたか。(知識的側面)
- ③自分の伝えたいことをまとめ, 工夫して表現できたか。(技能的側面)
- ④差別をなくそうという意欲を持ち, 解決に向けて努力しようとしているか。(価値的・態度的側面)

○高学年

- ①仲間として互いに認め合い, 学習できているか。(価値的・態度的側面)
- ②周囲の思いや願いから, 問題を理解することができたか。(知識的側面)
- ③自分の思いを, 内容や方法を考え表現しようとしているか。(技能的側面)
- ④学習したことを自分の生き方に重ねて, 生活しようとしているか。(価値的・態度的側面)

7. 研修計画

月	校内教職員研修	各種研究会	P T A
4	○本校の教育方針について ○校内研修計画 ○市宇ヶ丘学園研修会（知・徳・体3部会）	○郡教職員研修会	牟岐小短信
5	○人権教育年間計画作成 ○人権（3部会） ○授業公開（特別支援学級） ○人権学習研究授業4年生	○県小・中学校人権教育主事研修会	牟岐小短信
6	○「知ってね牟岐小学校」の検討 ○人権学習研究授業 2・3・5・6年生		牟岐小短信
7	○人権学習研究授業1年生 ○1学期の反省 ○指導案・報告原稿検討会	○四国地区人権教育研究会	牟岐小短信
8	○市宇ヶ丘学園研修会	○夏期講座	
9	○紀要原稿検討会 ○人権（3部会）		牟岐小短信
10	○人権（3部会） ○市宇ヶ丘学園研修会	○徳島県人権教育研究大会	牟岐小短信
11	○文部科学省指定小学校人権教育 研究発表会 ○人権学習授業参観	○文部科学省指定小学校人権教育研究発表会 ○県小学校人権教育主事研修会 ○郡人権教育研究大会 ○全国人権・同和教育研究大会	牟岐小短信 人権講演会
12	○2学期の反省		牟岐小短信
1	○人権学習研究授業2年生 ○市宇ヶ丘学園研修会（知・徳・体3部会）	○町教育会人権・同和教育研修会 ○県小学校人権教育主事研修会	牟岐小短信
2	○市宇ヶ丘学園研修会 ○人権教育の反省	○部落解放地方研究集会	牟岐小短信 入学説明会
3	○3学期の反省 ○次年度の人権教育計画		牟岐小短信

※その他各種研究大会、講演会、研修会への参加報告は、その都度行う。

8. 学校行事における人権教育のねらい

月	校 内 行 事		校 外 行 事
	お も な 行 事	ね ら い	
4	<ul style="list-style-type: none"> ○1学期始業式 ○入学式 ○対面式・小中対面式 ○家庭訪問 ○PTA授業参観及び 総会 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい学校,新しい学年で,友だちと仲良く楽しい学校生活を送ろうとする意欲をもつ。 ・児童の家庭環境を知るとともに,保護者と交流することにより保護者の願いを知る。 ・学校と保護者の連携を図るとともに,人権教育について理解を深める。 	
5	<ul style="list-style-type: none"> ○小中合同運動会 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いに協力しあって,成功させることの喜びを体感し,自尊感情を高める。 ・中学生との交流体験を通して,所属感を高め,主体性を育む。 	
6	<ul style="list-style-type: none"> ○標語ポスター 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスターを描くことにより,人権問題について考え,差別解消への意欲を高める。 	
7	<ul style="list-style-type: none"> ○1学期終業式 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団生活における規律や協力の大切さを理解するとともに,友だちのよいところを見つけ,認め合い支え合っていこうとする態度を育てる。 ・1学期の生活をふり返り,新たな目標をもつ。 	
8	<ul style="list-style-type: none"> ○七夕あんどん展 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統を受け継ぎ,積極的に作品展に参加することにより,学校や地域のよさに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○標語ポスター審査会
9	<ul style="list-style-type: none"> ○2学期始業式 ○宿泊体験学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・新学期に向かって,自分の目標をもち,積極的に取り組む。 	
10	<ul style="list-style-type: none"> ○修学旅行 ○遠足 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団での生活を通して好ましい人間関係を築くとともに,歴史学習を深める。 ・自然の中での体験活動を通して,好ましい人間関係を築くとともに,たくましく生きる態度を育てる。 ・牟岐町や近隣の町を歩くことにより,地域の人・もの・ことと関わり,主体性を育む。 	

月	校 内 行 事		校 外 行 事
	行 事 名	ね ら い	
11	○人権集会 ○人権学習授業参観	・人権学習の成果を発表したり、劇や参加型体験学習などを通じて、人権問題を解決しようとする意欲を持つ。 ・授業参観を通して、学校と保護者の共通理解を図り、家庭での人権意識の高揚を図る。	○町文化祭作品出展
12	○収穫祭 ○2学期終業式	・地域の方々との餅つき体験を通して、お世話になった方々への感謝の気持ちを育み、社会参画を目指す行動力を育成する。 ・2学期の生活をふり返り、新たな目標をもつ。	
1	○3学期始業式	・新学期に向かって、自分の目標をもち、積極的に取り組む。	
2	○ふれあいフェア	・1年間の学習でお世話になった人に感謝し、学習の成果を発表する。	
3	○6年生を送る会・送別オリエンテーリング ○卒業式 ○修了式	・お世話になった人に感謝の気持ちを持つとともに、牟岐町や牟岐小学校のよさに気付く。 ・小学校生活での歩みをふり返るとともに、新しい生活への希望や目標を持たせ、これからも友だちと協力しあって生活しようとする意欲を持つ。 ・それぞれの学年での1年間をふり返り、新学年へ向かっての希望や目標をもち、目標を達成しようとする意欲を育てる。	

10. 学年別人権学習指導計画 第1学年 1学期

学年別人権教育目標

友達よさに気づき、誰とでも仲良く楽しく生活する。

	教科等	単元名	主題名	資料名・題材名・活動名(出典等)	出典等	項目		学習のねらい	備考
						個人・小グループ課題	普遍的なテーマ		
①	道徳	がっこうだいすき	どうぞよろしく	すてきなことば「あふたあゆう」	道徳		自尊感情	学校の人々に親しみを持ち、学校生活を楽しくしようとする心情を育てる。	
②	学活	ちいむのなまえをきめよう	みんながみんながかがやこう	チーム名を決めよう			仲間作り	みんなでどんな学級にしていきたいかを考え、チーム名を意識しながら、みんなが輝く毎日にしていこうとする意欲と態度を育てる。	
③	道徳	ともだちのきもち	みんながってみんなたいせつ	だめだめネコはこまったゾウ	絵本	子ども	仲間作り	みんな大切な存在であることに気づき、自分も友だちも大切にしていこうとする態度を育てる。	
④	学活	みんなともだち	ともだちのことをしろう	しってね、わたしたちの牟岐小学校	自作		仲間作り	牟岐小学校にはいろいろな学びの場があることを知り、互いを認め合い、ともに楽しく生活しようとする態度を育てる。	
⑤	道徳	あたらしいともだち	だれともなかよし	ちょうのともだち	ひかり	障がい	仲間作り	外面的なことで友達を仲間はずしにしたり、その願いをふみにじったりしてはならないことを理解し、誰とでも仲良くしようとする態度を養う。	

評価

- ・ 相手の気持ちを考えて行動し、ともに楽しく生活しようとする大切さを理解できたか。
- ・ たくさんの人々に支えられていることに気づき、感謝の気持ちをもちながらともに生活しようと思いをもちることができたか。
- ・ 友達の意見を聞いたり、自分の考えを話したりすることができたか。

10.学年別人権学習指導計画 **第1学年** **2学期**

学年別人権教育目標

友達のよさに気づき、誰とでも仲良く楽しく生活する。

	教科等	単元名	主題名	資料名・題材名・活動名(出典等)	出典等	項目		学習のねらい	備考
						個人的人権課題	普遍的なテーマ		
①	道徳	みんななかよし	ともだち	じゃんけん	ひかり	子ども	仲間作り	好き嫌いやわがままなど自分勝手な行動をやめ、相手の気持ちを尊重し、誰とでもなかよししようとする態度を育てる。	
②	道徳	つたえあうところ	みんななかよく	はしの上のおおかみ	道徳	子ども	仲間作り	力の弱い者にいじわるすることはよくないことに気づき思いやりの心をもって仲良くしていこうとする心情を育てる。	
③	道徳	たいせつなともだち	ともだちっていいな	ヤギさんミルクはともだちじるし	絵本	子ども	仲間作り 自尊感情	友だちを大切にすることのすばらしさを感じ、自分も友だちも大切にしていこうとする態度を育てる。	
④	道徳	人権について考えよう		人権集会	行事	子ども	みんなの人権	自分なりに人権の視点に立った意見を持つことができる。	
⑤	学活	いいところいっぱい	自分大好きみんな大好き	ほめほめぶくろ	なかま		自尊感情	自分や友達のよさに気づき、互いに認め合い、大切にしていこうとする意欲を高める。	

評価

- 一人一人の違いを認め、互いに大切にしていこうと大切さを理解できたか。
- 一人一人の思いを大切に、だれもを大切にしていこうとする思いを高めることができたか。
- 友達の考えを聞いたり、自分の考えを話したりすることができたか。

10.学年別人権学習指導計画 第1学年 3学期

学年別人権教育目標

友達のよさに気づき、誰とも仲良く楽しく生活する。

①	教科等	単元名	主題名	資料名・題材名・活動名(出典等)	出典等	項目		学習のねらい	備考
						個別人権課題	普遍的なテーマ		
①	学活	ぼくの名まえわたしの名まえ	大切な名まえ	「ぼくの名まえは…」	ひかり	子ども	自尊心	あだ名をつけて相手を呼ぶことはその人の人権を傷つけることであるということを理解し、互いの人権を守っていくという態度を育てる。	
②	生活	ともだちいっぱいこむぎっ子	ありがとう	ふれあいフェア			自尊心	一年間学んだことを発表する中で、周りの人々に感謝するとともに自分も周りの人々も大切にしていこうとする態度を育てる。	
③	道徳	かがやくいのち	たいせつないのち	おたんじょうびれっしや	どうとく	女性	生命尊重	自分は多くの人に支えられながら、自分の生命力によって生きてきたことが分かり、そのすばらしさに心を動かし、生命を大切に生活していこうとする態度を育てる。	
④	生活	もうすぐ二年生	せいちょうしたじぶん	生活			自尊心	1年をふり返り、成長した自分に気づき、これからも仲間とともに歩いていこうとする思いを高める。	

評価

- ・ 自分や仲間の成長を喜び合い、ともに歩んでいく大切さを理解することができたか。
- ・ ともに生きる一人として自分にできることをしていこうとする気持ちを高めることができたか。
- ・ 友達の考えを聞いたり、自分の考えを話したりすることができたか。

令和6年度 単科小学校第2学年 人権学習年間カリキュラム 学校教育目標「創造的知性と豊かな人間性をもとに、強健な体をつくり、強い意力を持って最後までやりぬく、たくましい子どもを育てる。」

人権教育目標	人権教育目標「創造的知性と豊かな人間性をもとに、強健な体をつくり、強い意力を持って最後までやりぬく、たくましい子どもを育てる。」											
取組	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	4-1「ぼくの名まえ」	4-2「ぼくの名まえ」	4-3「ぼくの名まえ」	4-4「ぼくの名まえ」	4-5「ぼくの名まえ」	4-6「ぼくの名まえ」	4-7「ぼくの名まえ」	4-8「ぼくの名まえ」	4-9「ぼくの名まえ」	4-10「ぼくの名まえ」	4-11「ぼくの名まえ」	4-12「ぼくの名まえ」
算数	算1「お金のつくりかた」	算2「お金のつくりかた」	算3「お金のつくりかた」	算4「お金のつくりかた」	算5「お金のつくりかた」	算6「お金のつくりかた」	算7「お金のつくりかた」	算8「お金のつくりかた」	算9「お金のつくりかた」	算10「お金のつくりかた」	算11「お金のつくりかた」	算12「お金のつくりかた」
生活	生1「お金のつくりかた」	生2「お金のつくりかた」	生3「お金のつくりかた」	生4「お金のつくりかた」	生5「お金のつくりかた」	生6「お金のつくりかた」	生7「お金のつくりかた」	生8「お金のつくりかた」	生9「お金のつくりかた」	生10「お金のつくりかた」	生11「お金のつくりかた」	生12「お金のつくりかた」
音楽	音1「お金のつくりかた」	音2「お金のつくりかた」	音3「お金のつくりかた」	音4「お金のつくりかた」	音5「お金のつくりかた」	音6「お金のつくりかた」	音7「お金のつくりかた」	音8「お金のつくりかた」	音9「お金のつくりかた」	音10「お金のつくりかた」	音11「お金のつくりかた」	音12「お金のつくりかた」
図画工作	図1「お金のつくりかた」	図2「お金のつくりかた」	図3「お金のつくりかた」	図4「お金のつくりかた」	図5「お金のつくりかた」	図6「お金のつくりかた」	図7「お金のつくりかた」	図8「お金のつくりかた」	図9「お金のつくりかた」	図10「お金のつくりかた」	図11「お金のつくりかた」	図12「お金のつくりかた」
体育	体1「お金のつくりかた」	体2「お金のつくりかた」	体3「お金のつくりかた」	体4「お金のつくりかた」	体5「お金のつくりかた」	体6「お金のつくりかた」	体7「お金のつくりかた」	体8「お金のつくりかた」	体9「お金のつくりかた」	体10「お金のつくりかた」	体11「お金のつくりかた」	体12「お金のつくりかた」
人権学習	人1「お金のつくりかた」	人2「お金のつくりかた」	人3「お金のつくりかた」	人4「お金のつくりかた」	人5「お金のつくりかた」	人6「お金のつくりかた」	人7「お金のつくりかた」	人8「お金のつくりかた」	人9「お金のつくりかた」	人10「お金のつくりかた」	人11「お金のつくりかた」	人12「お金のつくりかた」
道徳	道1「お金のつくりかた」	道2「お金のつくりかた」	道3「お金のつくりかた」	道4「お金のつくりかた」	道5「お金のつくりかた」	道6「お金のつくりかた」	道7「お金のつくりかた」	道8「お金のつくりかた」	道9「お金のつくりかた」	道10「お金のつくりかた」	道11「お金のつくりかた」	道12「お金のつくりかた」
学校活動	学1「お金のつくりかた」	学2「お金のつくりかた」	学3「お金のつくりかた」	学4「お金のつくりかた」	学5「お金のつくりかた」	学6「お金のつくりかた」	学7「お金のつくりかた」	学8「お金のつくりかた」	学9「お金のつくりかた」	学10「お金のつくりかた」	学11「お金のつくりかた」	学12「お金のつくりかた」
授業	教1「お金のつくりかた」	教2「お金のつくりかた」	教3「お金のつくりかた」	教4「お金のつくりかた」	教5「お金のつくりかた」	教6「お金のつくりかた」	教7「お金のつくりかた」	教8「お金のつくりかた」	教9「お金のつくりかた」	教10「お金のつくりかた」	教11「お金のつくりかた」	教12「お金のつくりかた」
行事	行1「お金のつくりかた」	行2「お金のつくりかた」	行3「お金のつくりかた」	行4「お金のつくりかた」	行5「お金のつくりかた」	行6「お金のつくりかた」	行7「お金のつくりかた」	行8「お金のつくりかた」	行9「お金のつくりかた」	行10「お金のつくりかた」	行11「お金のつくりかた」	行12「お金のつくりかた」
学校行事	校1「お金のつくりかた」	校2「お金のつくりかた」	校3「お金のつくりかた」	校4「お金のつくりかた」	校5「お金のつくりかた」	校6「お金のつくりかた」	校7「お金のつくりかた」	校8「お金のつくりかた」	校9「お金のつくりかた」	校10「お金のつくりかた」	校11「お金のつくりかた」	校12「お金のつくりかた」

10. 学年別人権学習指導計画 第2学年 1学期

学年別人権教育目標 仲間が大切であることに気づき、助け合いながら楽しく生活しようとする態度を育てる。

	教科等	単元名	主題名	資料名・題材名・活動名(出典等)	出典等	項目		学習のねらい	備考
						個人・人権課題	普遍的なテーマ		
①	学活	チーム名をきめよう					仲間作り	学級のチーム名を考え、チームの一員として仲間と協力し、楽しく生活していこうとする気持ちを育てる。	
②	学活	うれしいことば	ともだちのよさを つたえあおう	うれしいことば			仲間作り	友達にはそれぞれいいところがあることを知り、互いに認め合う態度を育てる。	
③	生活	1年生に学校をあんないしよう		1年生をむかえよう			自尊感情	学校案内を通して1年生と交流し、仲良くなるとともに、1年生のお手本としてがんばろうとする態度を育てる。	
④	国語	スイミー	力をあわせて	スイミー	国語		仲間作り	一人一人の大切さについて考えるとともに、困難に負けないで、勇気を持って立ち向かおうとする態度を育てる。	
⑤	生活	どきどきわくわく町たんけん	町のやさしさに気づこう				障がい者	自分たちの住んでいる町が、だれもが安心して生活できる町づくりに取り組んでいることに気づかせる。	
⑥	体育	運動会をがんばろう	協力				仲間作り	運動会の競技で精いっぱい力を出せるよう、友達と協力しようとする態度を育てる。	
⑦	学活	かみひこうき			ひかり	女性	仲間作り	「男だから」「女だから」関係なく、自分らしさを大切にして、自分の意思で選択し、自己決定できる態度を育てる。	
⑧	道徳	おとうとのたんじょう	いのちのたんじょう		道徳		生命尊重・自尊感情	自分の命は家族の願いを受けて生まれてきたことや自分には生きる力があることが分かり、自分の命を大切にしようとする。	
⑨	学活	じぶんだけのたいせつなところ			文部科学省作成動画	犯罪被害者等	個人の尊重	自分だけの大切などころであることや大切などころを守るための適切な行動について、自分の考えを伝えたり、友だちの考えを聞いたりして自分や相手を大切にしようとする意欲を高める。	

評価

- ・ 自分のよいところに気づき、それをのばしていこうとできたか。
- ・ 相手のことを考えた言葉かけや行動を心がけることができたか。
- ・ 自分が周りの人々に支えられていることに気づき、感謝の心を持つことができたか。

10. 学年別人権学習指導計画 第2学年 2学期

学年別人権教育目標 仲間が大切であることに気付き、助け合いながら楽しく生活しようとする態度を育てる。

	教科等	単元名	主題名	資料名・題材名・活動名(出典等)	出典等	項目		学習のねらい	備考
						個人人権課題	普遍的なテーマ		
①	道徳	なかよしでいたい	信頼友情	なかよしでいたい	道徳	仲間作り		友達となかよししているためにどんなことが大切か考えさせる。	
②	生活	1年生とあそぼう		うごくくわしのおもちや	生活	コミュニケーション		自作したおもちゃあそびを1年生と一緒にすることで、相手を楽しませたり喜ばせたりするためにどうすればいいかを考えさせる。	
③	道徳	ひろみちゃんとゆみちゃん	友だちのささえ		ひかり	仲間作り		差別されたものの悲しみや憤りがわかり、外見や能力的なことで差別せず、誰とでも励まし合い、支え合いながら生活していこうとする態度を育てる。	
④	学活	こんなときどう言ったらいいかな?	アサーショントレーニング		“あわ”人権学習ハンドブック	自尊感情		自分の考えや気持ちなどに素直になり、相手のことを気づかしながら、正しいと思うことをはっきり伝えようとする態度を育てる。	
⑤	生活	もっとなかよし町たんけん	町の人となかよくなろう		生活	コミュニケーション		地域の人々と適切に接することができるようになった自分たちのよさに気づかせる。	
⑥	道徳	おばあちゃんの手	たくましい生き方	おばあちゃんの手	ひかり	高齢者		自分の仕事をやり遂げることが、まわりの人を幸せにし、自分自身も幸せにすることを、おばあちゃんの誠意あるたくましい生き方から学ばせる。	
⑦	行事	人権について考えよう		人権集会	行事	子ども みんなの人権		人権集会のめあてがわかり、自分なりに人権の視点に立った意見を持つことができるようにする。	

評価

- ・ 自分と同じように、友達の大切さに気付くことができたか。
- ・ 友達と協力しながら、学校生活を送っていこうとすることができたか。
- ・ 個性を尊重し、互いに助け合って生きていくことの大切さに気付くことができたか。

10.学年別人権学習指導計画 **第2学年** **3学期**

学年別人権教育目標 **仲間が大切であることに気づき、助け合いながら楽しく生活しようとする態度を育てる。**

	教科等	単元名	主題名	資料名・題材名・活動名 (出典等)	出典等	項目		学習のねらい	備考
						個別人権 課題	普遍的な テーマ		
①	生活	あしたへ ジャンプ		大きく なった自 分のこと をふりか えろう	生活		自尊 感情	自分の成長をふり返って喜ぶ とともに、成長には多くの人の 支えがあったことに気づく。	
②	生活	学習した ことを伝 えよう		生活・総 合フェア			自尊 感情	学習したことの発表を通して、 家族や地域の人に感謝の気持 ちを伝えることができるようにす る。	
③	道徳	生きる喜 び		わたしの ものがた り			生命 尊重	生きることを喜び、生命を大切 にしようとする心情を育てる。	
④	学活	チーム名 をふりか えろう					仲間 作り	年度始めに決めたチーム名の ような学級になれたか、チーム として仲間とどう過ごしてきたか をふりかえさせる。	

評価

- ・ 自分の成長、がんばりと、多くの人の支えに気付くことができたか。
- ・ 友達、家族、地域の人々に感謝の気持ちを伝えることができたか。
- ・ 1年間一緒にがんばってきた友達に感謝するとともに、これからも、みんなで助け合いながら生活していこうとする気持ちを持つことができたか。

10. 学年別人権学習指導計画 第3学年 1学期

学年別人権教育目標 相手の立場に立ち、思いやり協力し合って生活しようとする態度を育てる。

	教科等	単元名	主題名	資料名・題材名・活動名(出典等)	出典等	項目		学習のねらい	備考
						個人人権課題	普遍的なテーマ		
①	学活	なかまづくり	チーム名を考えよう		自作	仲間作り・自尊心		自分たちのチーム名を考え、1年間のめあてをたて、みんなで協力し合って楽しく生活しようとする意欲を高める。	
②	学活		まわりのひとたちのささえ	楽しいな学校	ひかり	仲間作り		周りの人たちの態度が「わたし」につらい思いをさせていたことに気づき、一人一人の立場に立って物事を考え、学級の仲間としてお互いに支え、励まし合い、共に思いやり協力し合う態度を育てる。	
③	体育	運動会の練習	支え合う仲間	泳げた二十五メートル	ひかり	仲間作り		日々の生活の中にある学力や能力によって差別することは間違いであることに気づき、差別に負けない強い心を育てるとともに、友達の立場や願いをしっかりと受けとめ、互いに支え合おうとする態度を高める。	運動会
④	道徳		支え合う仲間	はじめて小鳥が飛んだとき	ひかり	仲間作り		学級の友達の喜びを自分の喜びにできる人間のすばらしさを理解し、仲間と支え合い、協力し合って生活する温かい人間関係を築いていこうとする態度を育てる。	
⑤	道徳		一人ひとりを大切に	いじわる	ひかり	同和問題 仲間作り		外見や表面的なことで差別したり、能力で差別したりすることは、相手を悲しませ心を傷つけるということを理解し、互いに相手を尊重し、大切にすることを高める。	
⑥	学活	友だちへのメッセージ	自他を認めて		自作	コミュニケーション		学校生活を一緒に過ごす友達に、よい所や感謝の気持ちを伝える活動を通して、友達の思いを知り、これからも仲よく生活をしていこうとする態度を育てる。	

評価

- ・ 1年間のめあてを持ち、自分のこれからの成長を考えられているか。
- ・ 伝聞や推測から事実について知らないままに思いこみや偏見を持ってしまうことに気づき、自分の生活をふり返ることができるか。
- ・ 友達のよさに気づき、互いを認め合い、友達を大切にしていこうとしているか。

10.学年別人権学習指導計画 第3学年 2学期

学年別人権教育目標

相手の立場に立ち、思いやり協力し合って生活しようとする態度を育てる。

	教科等	単元名	主題名	資料名・題材名・活動名(出典等)	出典等	項目		学習のねらい	備考
						個人・人権課題	普遍的なテーマ		
①	国語	詩を読もう	支え合う仲間	わたしと小鳥とすずと			仲間作り	友達のよさに気づきちがいをちがいと認め、みんな大切な存在であるということを理解させ、友達を思いやり大切にしようとする態度を育てる。	
②	学活		個性を大切に	ともだち	ひかり	子ども	仲間作り	一人ひとりが自分自身のよさをもっていることに気付くとともに、自分を大切に育てる。	
③	社会	地いきの安全を守る	仕事の尊さ	お父さんの仕事	ひかり		自尊感情	わたしたちの生活は、様々な人たちの労働によって支えられながら暮らすが豊かになっていることや、職業によって差別することは不合理であることを理解し、正しい職業観をもつ。	
④	道徳		正しいことは	たった一度だけの	ひかり	子ども		たった一度の過ちで人を判断することの誤りに気づき、常に真実を確かめ、友達を大切にしていこうとする態度を育てるとともに、正しいと思ったことは勇気をもって立ち向かう意欲を養う。	
⑤	道徳		喜びをとともに	わたしたちの村	ひかり		同和問題	生活していく上でともに仲間として助け合いが大切であることを理解し、仲間はしをしない、許さない態度を育てる。	
⑥	総合		大すき!! 牟岐!!	町の人たちと交流しよう			自尊感情・コミュニケーション	自分たちの故郷牟岐町の大切な伝統や文化に関わる仕事や活動をしている人たちとの交流を通して、町の人への尊敬や町の良さを再発見する。	
⑦	学活	仲間作り	あやまった考え	病気じゃないんだけどなあ	ひかり		障がい者	お互いの違いを認め合い、個性を尊重しながら行動しようとする態度を育てる。	
⑧	国語	三年とうげ	あやまった考え	言い伝えや迷信	国語		みんなの人権	昔からの言い伝えや迷信にとらわれることは不合理であることを理解し、多面的なものの見方や考え方を養う。	

評価

- ・ 友達の気持ちや立場を考え、互いに励まし合い、協力し合おうとしているか。
- ・ 自分の成長を知ることにより、仲間の成長を喜び、生命を大切にしようとしているか。
- ・ わたしたちの生活は、様々な人たちの労働によって支えられていることを知り、どのような職業でも大切であることを理解することができたか。
- ・ 牟岐の人の思いを知り、町の人との関わりから、自分の町の良さや自分自身の良さについて改めて気づき、自分やふるさとを大切にしようとしているか。

10. 学年別人権学習指導計画 **第3学年** **3学期**

学年別人権教育目標 **相手の立場に立ち、思いやり協力し合って生活しようとする態度を育てる。**

	教科等	単元名	主題名	資料名・題材名・活動名 (出典等)	出典等	項目		学習のねらい	備考
						個人・人権 課題	普遍的な テーマ		
①	道徳	命のために	大切な命	赤ちゃんの時のこと	ひかり		生命尊重	自分の赤ちゃんの時のことを聞きとることにより、自分や仲間の成長の姿や親や周りの人々の思いに目を向け、感謝して生活しようとする態度を育てる。	
②	総合	ふれあいフェア	学びを伝えよう		自作		自尊心	一人一人が1年間をかけて学んだことを他学年や保護者、またはお世話になった町の方に伝え、これからも友に支え合い、協力し合って生活しようとする意欲を高める。	ふれあいフェア
③	学活	わたしたちの体	男女なかよく	女だから？男だから？	ひかり		女性	男子と女子がお互いに相手のよさや立場を考え、それぞれの役割や特性について認め合い、助け合って生活しようとする態度を育てる。	
④	国語	モチモチの木	弱虫でもやさしけりゃ	モチモチの木	国語		子ども	大切な人を思う気持ちは、やり遂げる力や勇気を生みだし、その力はだれの心の中にもひそんでいることに気づくとともに、一人の人間を多面的に受け止め認め合おうとする態度を養う。	

評価

- ・ お互いの違いに気づき、同じ人間として認め合い助け合って共に生きていこうとしているか。
- ・ お互いの違いに気づき、互いを認めることで、よりよい関係を築こうとしているか。
- ・ 自分の学びをお世話になった方に伝えることで、自分の学びが価値ある物であること知り、自分の良さに気づこうとしているか。

10. 学年別人権学習指導計画 第4学年 1学期

学年別人権教育目標

偏見や差別は誤りであることに気づき、自他ともに認め合う。

	教科等	単元名	主題名	資料名・題材名・活動名(出典等)	出典等	項目		学習のねらい	備考
						個人人権課題	普遍的なテーマ		
①	学活	なかまづくり	チーム名を考えよう		自作		仲間作り	自分たちのチーム名を考え、1年間のめあてをたて、みんなで共に伸びていこうとする態度を養う。	
②	学活			教室はまちがうところだ	ひかり		仲間作り	一人一人が安心して発言し、まちがった答えや考えを嘲笑せず、みんなで修正したり自分の考えを深めたりする中で、かけがえのない仲間作りをしようとする態度を養う。	
③	国語	話し方や聞き方から伝わること	大事なことを考えながら聞く	聞き取りメモのくふう	国語		コミュニケーション	必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話の中心を捉えることができる。相手を見て話したり聞いたりすることができる。	
④	学活		ともだちのことをしよう	知ってね、わたしたちの牟岐小学校	自作		仲間作り	牟岐小学校にはいろいろなところ、いろいろな学びの場があることを知り、互いに認め合う態度を育てる。	
⑤	道徳		本当の仲間	いっぺんどなったるか	ひかり	子ども	仲間作り	差別的な言動は相手の人権を無視する誤った行為であることを理解し、個人のなやみや苦しみを学級の問題としてとらえ、差別をしない、許さない態度を養う。	
⑥	道徳		見過ごさない心	だからわるい	ひかり		同和問題	正しいと判断したことは勇気をもって行う。傍観は偏見や差別の要因となることを理解し、真実を追究して偏見や差別を黙って見過ごさない態度を育てる。	
⑦	道徳		心を落ち着かせて	深く息をすって	道徳	インターネット上の人権侵害	仲間作り	自他の気持ちよい生活のために、心を落ち着かせて節度ある言動を取ろうとする。	
⑧	学活		よりよい人間関係の形成	SNSを正しく使おう	自作	インターネット上の人権侵害	仲間作り	SNSやインターネット上での適切なコミュニケーションについて考え、正しくインターネットを活用する素地を養うとともに、相手を思いやって行動しようとする態度を育てる。	

評価

- ・ 自分の考えを深めるために、友達の意見にも進んで耳を傾け、話し合おうとすることができたか。
- ・ 障がいがある人に対して、一方的に特別ルールをつくって活動することの是非について、具体的な場面を思い浮かべて考えることができたか。
- ・ 日常生活の中で何が差別につながるのかに気づき、自分の生活をふり返ることができたか。
- ・ とともに助け合い、支え合える仲間づくりをしていこうという気持ちを持って、進んで人権ポスターの制作に取り組むことができたか。

10. 学年別人権学習指導計画 第4学年 2学期

学年別人権教育目標

偏見や差別は誤りであることに気づき、自他ともに認め合う。

	教科等	単元名	主題名	資料名・題材名・活動名(出典等)	出典等	項目		学習のねらい	備考	
						個人人権課題	普遍的なテーマ			
①	道徳		よい友達になるために	ブラジルからの転入生	道徳	外国人	仲間作り	友達のよさを見つけ、友達と理解し合い、よりよい友達関係を築いていこうとする。		
②	道徳		相手の立場に立って	ぼくだけのルールはいらない	ひかり		障がい者	生活や遊びの中で、相手の気持ちや本当の願いを知ることの大切さを理解し、「障害」のある人となない人が互いに理解し、助け合って共に生きていこうとする気持ちを高める。		
③	学活	命のつながり			自作		犯罪被害者等子ども	命の尊厳	生まれてきたことや受け継がれてきた命に感謝し、命のつながりを大切にしていこうとする心情を養う。	
④	道徳		先人の力	いのちをつないだ牛	ひかり		同和問題		先人の力によって自分たちの生活や文化が成り立っていることを知り、ケガレ意識を払拭する素地を築く。	
⑤	道徳	尊い命		いのち	ひかり			生命尊重	受け継がれる生命のたくましさ感動し、生命あるものを大切にすることを育てる。	
⑥	道徳	人権について考えよう	相手の気持ちを考えて	わかってくれるかな	ひかり			みんなの人権	集団生活をおくる上で、相手の願いや思いを知り、その立場に立って行動しようとする態度を養う。	
⑦	道徳		何であかんの	ひかり			女性		男女の性差による固定観念に気づき、自分らしく生きようとする態度を養う。	

評価

- ・ 手話や点字に興味を持ち、意欲的に覚えようとする事ができたか。
- ・ 目や耳の不自由な人が、手話や点字を使って生き生きと生活していることに気づくことができたか。
- ・ 傍観者も差別を助長する原因であることに気づき、自らが差別解消に取り組む意欲を持つことができたか。
- ・ 伝え合いの大切さが分かり、それについての自分の考えを表現することができたか。
- ・ 友達の良さに積極的に気づこうとし、おたがいに理解し合って生活しようとしたか。
- ・ 人権集会に積極的な態度で参加することができたか。

10. 学年別人権学習指導計画 第4学年 3学期

学年別人権教育目標

偏見や差別は誤りであることに気づき、自他ともに認め合う。

	教科等	単元名	主題名	資料名・題材名・活動名(出典等)	出典等	項目		学習のねらい	備考
						個人・人権課題	普遍的なテーマ		
①	学活		友だちのよさ	ひびわれつぼ	“あわ”人権学習ハンドブック		仲間作り	友達をお互いに信頼し合い、ときには注意し合いながら友情を深めていこうとする心情や態度を育てる。	
②	総合	生活・総合フェア	学びを伝えよう		自作		自尊感情	一人一人が1年間をかけて学んだことを他学年や保護者、またはお世話になった町の方に伝え、自分たちの頑張りを認められることで自尊感情が高まるようにする。	生活総合学習フェア
③	学活	男女の体や心の成長			自作	犯罪被害者等子ども	命の尊厳	男女の体のちがいや心の成長について知り、互いに思いやる心を育てる。	
④	道徳		命の大切さ	五百人からもらった命	道徳		仲間作り	自分を支えてくれている人の存在に気づき、生命あるものを大切にすることを育てる。	

評価

- ・ 自分に注がれる周りの人からの愛情に気づき、自分の命を大切にしていこうとする気持ちを持つことができたか。
- ・ 差別のない町にするために地域の人々や先人が取り組んできたことを、進んで知ろうとできたか。
- ・ 仲間について、お互いに信頼し合い、ともに楽しく生活しようとすることができたか。

10.学年別人権学習指導計画 第5学年 1学期

学年別人権教育目標

人権と差別に対する認識を深め、人権意識を高める。

	教科等	単元名	主題名	資料名・題材名・活動名 (出典等)	出典等	項目		学習のねらい	備考
						個人人権課題	普遍的なテーマ		
①	学活		チーム名を決めよう				仲間作り	一人一人は何らかの点で違い、その違う人たちの集まりによって社会は形成されていることを理解するとともに、それぞれの違いを認め、よりよい仲間づくりをすることができる。	
②	道徳		生きているからこそ	一枚の写真から	道徳		生命尊重	生きていることの喜びを感じながら、かけがえのない命を、大切に自分自身で守っていかうとする心情を育てる。	
③	総合		今自分にできること			災害時における人権問題	仲間作り	自分や他の人の命の大切さを実感し、助け合って生きていかうとする態度を育てる。	
④	学活		私たちのなやみ	みんなの学級	ひかり		仲間作り	友達の人格を外見や現象面だけで判断することの不合理性に気づき、偏見や差別のない仲間づくりを進めることができる。	
⑤	道徳		個性を認め合う	ちがうことばんざい	ひかり		仲間作り	一人一人は何らかの点で違い、その違う人たちの集まりによって社会は形成されていることを理解するとともに、それぞれの違いを認め、よりよい仲間づくりをすることができる。	
⑥	学活		みんな同じ人間	みんなでお話そう	ひかり		障がい者	互いのちがいを認め合いながら、いろいろな方法でコミュニケーションをとり、ともに生きていかうとする態度を養う。	
⑦	道徳		同じ地球に生きる	いっしょに何をしようかな	道徳		外国人	外国の人々や異文化の中に、自分と共有される多くの感性や思いがあることに改めて気づき、それを大切にしながら、国際親善に努めようとする心情を育てる。	
⑧	学活		ともだちのことをしろう	知ってね、わたしたちの牟岐小学校	自作		仲間作り	牟岐小学校にはいろいろなところいろいろな学びの場があることを知り、互いに認め合う態度を育てる。	

評価

- ・ 自分のよさを認め、さらに長所を伸ばそうとする態度を養うことができたか。
- ・ かけがえのない命を大切に自分自身で守っていかうとする心情を持つことができたか。
- ・ クラスの中で、同じ仲間としてふさわしくない行動や言動がないか、進んで考えることはできたか。
- ・ よりよいクラスにするために問題を解決する方法を進んで考えることができたか。
- ・ あらゆる人がともに生きる社会を築くために、ちがいを認め合い、尊重し合う大切さを理解し、自分が今できることについて考えることができたか。
- ・ 自分と同世代の世界の子どもたちの生活の様子について理解することができたか。

10.学年別人権学習指導計画 第5学年 2学期

学年別人権教育目標

人権と差別に対する認識を深め、人権意識を高める。

	教科等	単元名	主題名	資料名・題材名・活動名(出典等)	出典等	項目		学習のねらい	備考
						個人人権課題	普遍的なテーマ		
①	道徳		自分に誠実に	手品師	道徳		自尊心	正直で陰ひななく常に明るく誠実に行動しようとする態度を養う。	
②	道徳		ほんとうの思いやり	藤井駅のホームのできごと	道徳	高齢者		相手の立場や気持ちを考え、温かく親切にする心情を育てる。	
③	道徳		男女が理解し合う心	ドッジボールを百倍楽しくする方法	道徳	女性	コミュニケーション	男女互い理解し合って友情を育て、協力しようとする心情を育てる。	
④	道徳		一人ひとりを大切に	なかまたちのか	ひかり		仲間作り	偏見や差別が人を悲しませ、不幸にしていることに気づき、それを訴える勇気と支える集団の大切さを理解し、実際の生活の中で実現することができる。	
⑤	総合		学ぼうさいin牟岐	防災への思い		災害時における人権問題	仲間作り	防災に取り組む人々の思いや願いを知り、自分や他の人の命の大切さを実感し、助け合って生きていこうとする態度を育てる。	
⑥	総合	高齢者の気持ちを知ろう		高齢者体験しよう		高齢者		高齢者の体の動きや視覚・聴覚の変化を体験することにより、高齢者にも温かい気持ちで接しようとする態度を育てる。	
⑦	道徳		男女平等	不合理なしきたり	ひかり	女性	みんなの人権	不合理なしきたりやならわしに気づき、なくしていこうとする態度を養う。	
⑧	行事	差別や偏見について考えよう		人権集会			みんなの人権	人権集会のめあてが分かり、自分なりに人権の視点に立った意見をもつことができる。	
⑨	道徳		強い思いをもって、よりよく生きる	マララ・ユスフザイ～人の少女が世界を変える～	道徳	女性子ども		よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じ、自分にとってのよりよい生き方を見つけようとする。	
⑩	道徳		広い心で	まかせてみようよ	道徳		仲間作り	自分のことばかりでなく、広い心で相手の立場や気持ちを受け入れようとする態度を養う。	

評価

- ・ 自分を大切に、明るく前向きに生活していこうとしているか。
- ・ 障がいのある人の本当の思いや願いに気づかせ、ありのままの姿を認めていこうとすることができたか。
- ・ 不合理なしきたりやならわしに気づき、なくしていこうとする態度を養い、男女平等を生活に根づかせようとする意欲を持つことができたか。
- ・ 人権集会のテーマに沿って自分の意見を発表するなど、積極的な参加の仕方ができたか。
- ・ 災害時における正しい情報を選択し、被災者の立場にたって考えることの大切さが理解できたか。
- ・ 自分のことばかりでなく、広い心で相手の立場や気持ちを受け入れようとする事ができたか。

10.学年別人権学習指導計画 第5学年 3学期

学年別人権教育目標

人権と差別に対する認識を深め、人権意識を高める。

	教科等	単元名	主題名	資料名・題材名・活動名(出典等)	出典等	項目		学習のねらい	備考
						個人人権課題	普遍的なテーマ		
①	道徳		自分の良さを伸ばす	短所も長所	道徳		自尊感情	自分の長所を知り、高い目標を掲げて、常に努力しようとする態度を育てる。	
②	社会		正しく伝えよう	守ろうインターネットモラル	ひかり	インターネットによる人権侵害	コミュニケーション	自らの発言に責任をもち、情報をうのみにせず、正しい情報を選び取るという態度がインターネットによる人権侵害の解決につながることを理解させる。	
③	道徳		わけへだてなく	山の粥	ひかり	同和問題		山の村人、里の村人の人間像をしっかりと理解し、差別の愚かさ気づくとともに、人間が持つ強さや優しさに共感する。	
④	道徳		自分の生きる力を信じて	生きる力を引き出すわらい	道徳		生命尊重	自分たちに「生きようとする力」があることが分かり、自分も周囲の人と支え合い、高め合って生きようとする態度を養う。	
⑤	総合		自分が好き・友だちがすき・牟岐がすき	ふれあいフェア		災害時における人権問題	自尊感情	一人一人が1年間かけて学んだことを他学年や保護者、またはお世話になった町の方に伝え、自分たちの頑張りを認められることで自尊感情が高まるようにする。	
⑥	道徳		不合理な差別	「人権が大切にされるまちづくり」をめざして	ひかり	同和問題		「幸せに生きる」「人間らしく生きる」権利を奪うものに対して怒りを持つとともに、自分も、差別のない一人一人の人権が尊重される社会をつくっていくための一人としてともに歩んでいこうとする意識を育てる。	

評価

- ・ 自分の長所を知り、目標を掲げて常に努力しようとする意欲を持つことができたか。
- ・ いのちの大切さを知り、自他の命を尊重することができたか。
- ・ 自らの発言に責任をもち、正しい情報を選び取るという態度がインターネットによる人権侵害の解決につながることを理解することができたか。
- ・ 差別のない一人一人の人権が尊重される社会をつくっていくための一人としてともに歩んでいこうとする意識をもつことができたか。
- ・ 生命を脅かすものや人権を侵害するものに対する憤りをもち、それらを許さず、立ち向かっていく態度を養うことができたか。
- ・ 偏見や不合理に惑わされながら差別する人間の愚かさとともに、それを乗り越えたところで輝く被差別部落の人々の生きざまを学びとることができたか。

10. 学年別人権学習指導計画 第6学年 1学期

学年別人権教育目標 差別の不合理や矛盾に気づき、自ら差別を解消する実践的な行動力を育てる。

教科等	単元名	主題名	資料名・題材名・活動名(出典等)	出典等	項目		学習のねらい	備考	
					個人・人権課題	普遍的なテーマ			
①	学活	チーム名を考えよう	こんな学級になろう			仲間作り	6年生の学級名を決めることにより、どんな学級になりたいのか、何をめざしたいのかを話し合い団結してめあてに向かって進もうという気持ちを高める。		
②	道徳	権利ってなんだろっ	人権について考えよう	世界人権宣言 こんなにいやだチェック	ひかり "あわ"人権ハンドブック	みんなの人権自尊心	「こんなにいやだチェック」をし友達と意見交換することにより、何が人権侵害にあたるのかを考え、自分の権利も友達の権利も大切にすることを育てる。		
③	学活	6年生になって	本当の仲間にかおりの決心	ひかり	子ども	仲間作り自尊心	いじめ問題の背景には、いじめ側の問題だけでなく、傍観的な態度しかとれないことが大きな要因としてあることに気づき、一人一人が良心に従い、勇気を持って行動していくことが真の友情を育てることを理解する。		
④	図工	人権ポスター	人権ポスター			仲間作り	みんなそれぞれ力いっぱい生きていることを知り、互いの違いや個性を尊重し合って生活しようとする態度を養う。		
⑤	道徳	共に生きる	宙に消えた「ありがとう」	ひかり	障がい者		「障がい」をもつ人との関わりの中で、自分たちはどうすればいいのかを話し合い、「ともに生きる」とはどういうことなのか、その意義について考える。		
⑥	国語	今、私は、ぼくは	人権について考えよう	人権作文		みんなの人権	中学校の人権集会に参加し、生活や学習をふり返る中で、一人一人の人権を尊重する態度を養う。		
⑦	総合	避難生活で私たちにできること				災害時における人権問題	みんなの人権	私たちの生活は、多くの人たちの支えや協力によって成り立っていることを理解し、避難生活でもお互いに支え合い感謝する気持ちを育てる。	

評価

- ・ いじめ問題は当事者だけの問題ではなく、傍観者にも問題があるという視点から考えることができたか。
- ・ 差別の不合理性に気づき、差別を見逃さない・許さない意思をもつことができたか。
- ・ 同じクラスのなかまとしてふさわしくない行動や言動がないか気づき、進んで考えることができたか。
- ・ よりよいクラスにするために、問題を解決する方法を進んで考えることができたか。
- ・ 「障がい」がある友だちに積極的に関わり、いっしょに楽しく学校生活を送ろうとすることができたか。
- ・ 自分や他者の個性や長所に気づき、よりよい自分のあり方や他者との関わり方について考えることができたか。

10.学年別人権学習指導計画 第6学年 2学期

学年別人権教育目標 差別の不合理や矛盾に気づき、自ら差別を解消する実践的な行動力を育てる。

教科等	単元名	主題名	資料名・題材名・活動名(出典等)	出典等	項目		学習のねらい	備考
					差別人権課題	普遍的なテーマ		
① 社会	民衆の成長と社会の変化	差別された人々への生活への誇り	渋染一揆	ひかり	同和問題		民衆を分断支配することによって安定を図った江戸幕府の政治を理解し、部落差別に合理的理由がないことを知る。また、差別を受けた人々が、いかにたくましく生きたかを理解する。	
② 社会	新しい時代の幕あけ	残された差別	解放令	ひかり	同和問題		解放令は、分断・差別されていた人々を法律上の身分から解放したが、実質的な差別問題解決には至らなかったことを理解する。	
③ 道徳	差別の中でたくましく生きた人々	立ち上がった人々	水平社運動	ひかり	同和問題		自ら立ち上がり、差別を解消するため水平社運動に参加した人々の思いや願いを理解し、共感する。	
④ 社会	新しい時代の幕あけ	人権を守る	アイヌの人々の暮らしと人権について考えよう	社会	アイヌの人々		日本に所属することにより、民族の誇りや権利を失ってしまったアイヌの人々について正しく理解する。	
⑤ 社会	2つの戦争と日本・アジア	女性の人権	女性の権利や地位の向上	社会	女性		女性の権利や地位の向上を求める運動がどのように進められたのかを理解する。	
⑥ 特活	人権について知ろう		小さなかけ橋	ひかり	HIV感染者・ハンセン病患者等		ハンセン病にかかった人々が島に隔離されたことは人権を奪われたことであることを理解し、差別や偏見を持たない態度を養う。	
⑦ 道徳	差別の中でたくましく生きた人々	人権獲得を目指して	教科書無償の運動	ひかり	同和問題		憲法と行政の矛盾に気づき、団結して運動していった人々の姿から、困難に立ち向かい克服するすばらしさを実感させる。	
⑧ 道徳	高齢者の気持ちを分かろう	支え合って生きる			災害時における人権問題・高齢者	みんなの人権	高齢者疑似体験をすることで、高齢者の気持ちを理解し、災害時にどのように行動すればよいかを積極的に考えることができる。	
⑨ 総合	フィールドワークで学んだこと	私たちにできること			災害時における人権問題	自尊心	「守る・逃げる・生きる」の避難三原則に基づき、地震津波による避難所生活を想定した体験活動を通じ、子どもたち一人一人の自助共助意識を高めるとともにたくましく生きる力を養う。	
⑩ 行事	コロナ感染による差別や偏見について考えよう		人権集会			みんなの人権	人権集会のめあてが分かり、自分なりに人権の視点に立った意見をもつことができる。	

評価

- ・ハンセン病患者の方に、どのような関わり方が大切なのか、具体的に考えることができたか。
- ・女性が社会的・政治的には不平等な立場にあったことを知り、男女平等な社会をめざそうとする視点から考えることができたか。
- ・日本は過去に他国を侵略し、多大な被害と損害を与えたことを知り、日本がこれから世界の平和にどのようなことをすればいいか考えることができたか。
- ・差別の不合理性に気づき、差別を見逃さない・許さない意思をもつことができたか。
- ・「人権集会」のテーマを理解し、積極的な参加ができたか。
- ・差別は「残された」ものであることを理解し、自らの力と行動で自由と権利を勝ち取ってきた人々に共感することができたか。
- ・災害時における人権問題について理解し、高齢者の立場に立って考え、どのように行動すればよいか考えることができたか。

10. 学年別人権学習指導計画 第6学年 3学期

学年別人権教育目標 **差別の不合理や矛盾に気づき、自ら差別を解消する実践的な行動力を育てる。**

教科等	単元名	主題名	資料名・題材名・活動名(出典等)	出典等	項目		学習のねらい	備考
					個別人権課題	普遍的なテーマ		
① 国語		生き方や考え方を 読み取る	海の命	国語		生命 尊重 自尊 感情	「命」ということばからいろいろに考え、自分や他人の生命を大切にしようとする態度を育てる。	
② 道徳		差別のない社会を めざして	識字学級と学習会・人権が大切にされた町づくりをめざして	ひかり	同和問題		識字学級ができたわけや参加している人々の思いに共感し、差別を許さない心情を育てるとともに、差別の不合理や学習会の役割について理解し、学習会に参加している友達や親の願い、思いに共感する。	
③ 社会	世界の中の日本		アニメ「めぐみ」を活用して	“あわ”人権学習ハンドブックプラス	日本人拉致問題		拉致問題の実態を知ることを通して、拉致問題が生命や安全を脅かす重大な人権侵害であることを認識させ、拉致被害者家族の思いを自分のこととして捉え、協力してよりよい社会の実現に取り組もうとする意欲を高める。	
④ 学活	生命(いのち)の安全教育	思春期の心			性の多様性		思春期の心の変化や体の変化に気づき、自分や他者の命を大切にするために自分にできることを考えることができる。	
⑤ 総合	生活・総合フェア				災害時における人権問題	自尊感情	1年間の総合学習の学びを発表することで、自助共助の意識を高め、災害時、さまざまな立場の人の視点に立って自分たちにできることを考えることができる。	
⑥ 保健	病気の予防	共に生きる	小さなかけ橋	ひかり	HIV感染者・ハンセン病患者		エイズについて正しく理解し、感染者に対する偏見や差別を払拭することの大切さがわかる。そして、人権を尊重して共に生きていこうとする態度を育てる。	

評価

- ・ 自分が差別とどのように向かい合い、今後どのように生きていくのか考えることができたか。
- ・ 世界の国々の現状や国連・青年海外協力隊の活動について理解し、現在、また今後、自分たちに何ができるのか具体的に考えることができたか。
- ・ 差別の不合理性に気づき、差別を見逃さない・許さない意思をもつことができたか。
- ・ 同じクラスのなかまとしてふさわしくない行動や言動がないか気づき、進んで考えることができたか。
- ・ 拉致問題を理解し、拉致被害者家族への思いを自分のこととして捉えることができたか。
- ・ 自分や他者の個性や長所に気づき、よりよい自分のあり方やよりよい他者との関わり方について考えることができたか。
- ・ エイズやHIVについて正しく理解でき、偏見や差別を払拭することができたか。
- ・ 災害時における人権問題や防災学習で学んだこと・自分にできることを「生活総合フェア」で伝え、今後の防災への取組について考えることができたか。

11. 人権学習指導計画一覧表および時数

	1年			2年			3年			4年			5年			6年			
	1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期	
個別の人権課題	同和問題						5	5		6	1			3	6		1	2	3
	子ども	3	1	2	3	1		7		2	4	4	5		9		3		
	障がい者	5			5				7				2		6			5	
	高齢者					6									2	6			
	女性		3		7				3		7				3	7	9		5
	外国人									1			7						
	HIV感染者・ハンセン病患者等																	6	6
	犯罪被害者等				9						3	3							
	刑を終えて出所した人																		
	アイヌの人々																		4
	インターネットによる人権侵害									7	8				2				
	日本人拉致問題																		
災害時における人権問題													3	5	5	7	8	9	
様々な人権問題																			
普遍的なテーマ	自尊感情	1	2	3	5	1	2	4	3	4	1	2	1	3	6	2			2
	生命尊重			3		8		3			1		3	5	3	2		4	
	コミュニケーション					2	5		6	6		3				3	2		
	仲間作り (個性の尊重)	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	4	1	3	4
	みんなの人権		4				7			8			6			7	8	2	6

※表の番号は、各学年別指導計画の学習内容番号とし、内容表記を省いてある。

6. 推進体制（都道府県・指定都市教育委員会を含む）

